

〈共に在ること〉を前提とした〈関係としての場所〉

論文要旨

本論文は、建築設計を学んだ後に美術作家として活動をしている筆者が、自身の実践を通じて見出し、問い直そうとしている〈美術表現における場所〉というものについて、美術史、地理学、哲学などの知見を参照し分析する。そしてこの分析を元に、美術表現によって生み出される場所の可能性と、それを如何にして実践し得るのかということ、実践論として提示する。

美術においても地理学や哲学等においても、場所というものの捉え方は存在の器のようなものとされてきた。それは一方で存在を意味付け、他方では存在によって意味付けられるものとして。近代からの主客の分離は、場所をも客体化するものとして働き、それを改めて問い直すように1970年代からの人間主義地理学においては、特に人による場所への根付きと、その内側からの意味付けが重要視されてきた。それでも尚、意味付けをする人の特権性や場所の本質性という前提は残されていた。しかしこの30年程の間でこれらの前提は再度見直される。意味付けをする主体は人に限定されることなく、また時にその主体は客体とも入れ替わる。そして場所というものを分ける境界もまた確固としたものではない。存在も場所も多孔的で動的なものとして捉えられている。このように、自明なものとしてされてきたあり様がことごとく解体された中で、それでも場所が場所であるということは、一体どのようにして認められるのか。それは無数の存在が〈共に在る〉ということだけを前提とし、共通感覚に身を委ね続け、それらを構想し続ける、ということによってのみ成し得るものである。

本論文の構成は、序論（1・2章）と本論（3・4章）、そして結論（第5章）という5章構成になる。

第1章は、上に述べた本研究の目的とともに、本研究の背景として先行研究の概要を記し、更に、筆者自身の生い立ちから表現活動を遡る中で、それらを通じて浮上してきた美術表現における場所に対する違和感を示すことで、実践者としての本研究の背景を明確にし本研

究の仮の問題設定とする。

第2章は、美術表現において場所がどのように捉えられてきたのかを確認する。そこからは、現実空間における物理的な地という場所と、表現が表象対象とし依拠する場所が、作品が置かれる一つの地において結びついており、それがサイトという言葉で表されていたことが分かる。そして1960～2000年代初頭までの場所に関わる様々な作品の変遷と特徴を記したミウォン・クォンの著書から、このサイトという言葉が徐々に言説的なもの、つまり作品が表象対象とし依拠する場所へと傾いていったことを確認する。そこには作品とサイトが物理的に乖離する事態も見出されるのだが、この乖離が意味することを第1章で記した仮の問題設定と接続し、作品が置かれている地での経験とその表象対象である場所を有した地における経験とは異なるものになる、という本論文で検討すべき問題を導き出す。

第3章は、ここまで、前提のように記してきた場所のあり様（様々な要素による構成、それらとの関わりという経験、その関係の特異性を見出すことが場所を作り表象すること）について、場所や空間を主な対象としてきた地理学における知見を論拠として確認する。まずは初期のサイト・スペシフィック・アートにおいても共有されていた現象学的経験を重視した人間主義地理学における場所論から、場所として問われるべきものが経験する人間の姿勢に向けられていることを確認し、同時に、経験主体が閉じられたものとして見做されることの危険性が残されていることを見出す。そこから地理学者ドリーン・マッシーの著書の検討へと移る。この検討を経ることで、第2章でクォンが乗り越えるべき問題としつつも語り尽くせていなかった問題としての「地に足のついた固定的で現実的なもの」と「地に足のついていない流動的で仮想的なもの」、そして更には、作品、作者、鑑賞者をも、場所を構成する要素としてその一部となることが認められる。そしてここに、本論文の結論へと至るキーワード<共にあること・関係としての場所>が見出される。

そして第4章では前章までの考察を受け筆者の作品の幾つかを分析し、一つの地を構成する様々な要素とその関係、関わりの契機としての地と作品が置かれる地が一つの地であることの重要性を、制作、鑑賞の際の受容の問題との関係から述べ、更に場所の創造に関わる共通感覚と共感覚におけるアナロジーというものについての考察を付加する。

結論としての第5章は、表現をもって現実空間へ再参入すること、について述べる。それはサイト・スペシフィック・アートがその初期に有していた閉じられた世界からの脱出ということであり、そして、一体どのようにしてこの現実空間としての世界を生き、共に創っていくのか、ということを経験を通じ、作品を媒介にして問い続けることである、として結ぶ。